

夜明けに、
月の手触りを

藤原佳奈

登場人物

さや 転職を繰り返す派遣社員

ゆうこ アイドルにはまる保育士

しずか 広告代理店で働く女

あさこ 遺伝子を研究する大学院生

まき 関西から上京した女芸人

○ 女達の朝

(発話されない)

人、交差する人、光、朝、女、細胞、かけめぐる声、光が差し込む、電車、運動、振動。アスファルト、道に寝転がるホームレス、行列ができるスタバックス、とかくコーヒーを流しこむ朝、露になる繁華街、カラスの縄張り、電車、運動、振動。イヤフォンから流れる音、交差する視線、思い出す昨日の言葉、見返すメール、今日のスケジュール、これからの私、リズムを刻む、電車が走る、時がすぎる、ただ、運ばれて行く。

○ 満員電車内

しずか、あさこ、ゆうこ、まき、さや、いびつな形で立っている。

しずか 隣の、背が低いおじさんの、油が浮かんだ頭皮から逃れ、隣の、パー3

マがちりちりとなったお姉さんの髪にうずめてしまわないようにと顔を避け、後ろにいる男の人、多分同世代、と、できるだけ身体が、特に下半身が、密着しきらないようにと、すこし腰を前に押し出し、かといって私の前に座っている整った着こなしをしているおばさまの、プライベートな領域へ侵入しすぎないように身体を食い止める。乗り換えまで、あと3駅。あ。自分の仕事が、あった。

広告の声 《秋には、秋刀魚！ 秋には、松茸！ 秋には、秋絞り！秋だけど♪ 秋だけど♪ 絞り立て♪》

しずか 広告の中では、収まりよく、中堅の女優がビール片手に微笑んでいる。

まき どこかから、子供の声が出た。

あさこ どこかから、赤ん坊の声が聞こえた。

さや 隣の席の赤ちゃんに、腕をつかまれた。私を見つめる赤ちゃん。母親は、申し訳なさそうに、私から赤ちゃんを引きはがした。

ゆうこ 昨日はたっくんの誕生日だったから、何かしら動画が更新されているはず、とブログを開く。案の定、新着マーク。イエス。電車の中、人と人の間に埋もれて、こうして、包み込まれている感覚が、私は結構好き。動画では、ケーキを抱えたたっくんが、カメラに向かってしゃべっていた。まさしやんとゆつきーがバースデーソングを歌っている。はっぴばーすでーたーくとー♪ まさしやんの声。

電車が急停車する音。

しずか 急に、電車が止まった。

車内、小さなざわめき。

ゆうこ、おもむろにイヤフォンを取り出し音楽を聞く。

身体が揺れ、歌い出す。

ゆうこ ♪シャウトするボクラの、ドウドウツドウドウツドウー！

シャウトするボクラの、ドウドウツドウドウツドウー♪

周囲、ゆうこを見る。

ゆうこ 電車の中の、こういう空気は好きじゃない。ちよつとしたことで不安が連鎖して、急に、時間が濃くなるような、息苦しくなるような、こんな時は、まさしやんの、声を、聞く！

♪シャウトするボクラの、心届けよサンシャイン、胸を響かせロッキーン！ 頭揺らしてサイクリング、ささみ食べたいチッキーン！

♪

音量マックスで聞く、このアルバムは昨日、私の家に届いたもの、サイン付。この手に残る感触……一ヶ月前のファンクラブ先行予約販売イベント、“夏の終わりのセキュリティ”……イエス。人の波をかきわ

けかきわけ、戦法ザ・うなぎで勝ち取った最前列、イエス！ 会場の熱気、きつと私が一番高熱、早まる鼓動、今か今かと待って、照らされたステージ！ 大ヒット曲『君はゆでたまご』のイントロが流れる中、後光を差して登場した三人！ イエッス！

三匹のぬいぐるみ（セキュリティボーイズ）登場。

ゆうこ

眩しく眩しい三人の姿は、もう、絶対的すぎて、ああ、もうだめだ、わたしには直視ができない！ ……うそ！ 舐め回すように見るけど！ あひる口、たっくんの唇！ は دونالدダックも土下座する造形美！（Donaldダックのまね）しよう顔、ゆつきーのすつとした鼻筋！ は、たぶん整形形！ しかしそんなの関係ねえ！ そしてそして、まさしやんの、あ、間違えた、わたしのまさしやんの、くりくりとした二重、それはどんなどんぐりよりもくりくりしていて、すらつと、聖なる股下から伸びた、如何なる障害物をもまたげそうな、為末大が歯軋りしそうな、長い足！ ……ジラフー…！ わっしょい！ 私を見て、くしゃつとほころぶ笑顔、それはまるで子犬のよう、と言いたいところだけれど、こんな可愛い子犬がいたら連れてきてください！ 言い表す言葉がみつかりません…SO CUTE SO PRETTY SO DELICIOUS、OHユウノンドディスクリプションはこのことかあ！ みんなの声援に答えるまさしやん、隣のゆつきーと肩を組んでじゃれあうまさしやん、まさしやん。まさしやん！

『君はゆでたまご』by セキュリティボーイズ

♪君は、ゆでたまご、ぼくは、白身かな？

君は、ゆでたまご、ぼくは、白身だね！

君は、ゆでたまご、ぼくは、白身だぞ！

ゆでたまごの君をぼくがつつんであ・げ・る

半熟の君をそつとつつんであ・げ・る

KIMI・KIMI・KIMIKIMI (ジャッジャー)

ぼくの KIMI・KIMI・KIMIKIMI (ジャッジャー)

ぼくだけの KI・MI〜♪

ゆうこ

そしてそして、メインイベントの握手会！

長い列を待ちながら、わたしは、まさしやんにかける言葉を、考えました。みなさん、お気づきでしょうか。これは、私が、どう楽しむか、では、ありません。いつも、私に、元気を届けてくれる、生きる、活路を見出してくれるまさしやんに、私から、感謝の意味をこめ、プレゼントなのです。だから、笑って欲しかった。

どうかまさしちゃんには、私と話した、たとえ1分、いえ、たとえ10秒でも、笑っていて欲しかった。まさしちゃんの、笑顔の前で、私は渾身の言葉を振り絞る。

「まさしちゃん、とかけてまして、祭りをしきる町内会のおじさん、ときます。その心は？」

なんだろう、と考えるまさしちゃん。(もったいぶって) ……みんなに、ハッピーを、くれるでしょう！ はっぴーを……ハッピーを……

「祭りだよお〜祭りだよ〜ハッピーだよ〜」……“はっぴ”をくれるでしょう！

なるほどね！ とまさしちゃんの笑顔。まさしちゃんと私、二人だけに流れる時間、この時間が永遠に続けば、まさしちゃんと私の間の、この濃密な時間は、二人の子供を作りうるかもしれない、と思いました。あれからもう一ヶ月、それでも手のひらに残る感触、耳から聞こえるまさしちゃんの声と共に、私はそれを反芻する。

この急に止まった電車の中の、今、この不穏な空気に怯える全ての人達に、私の、この手に蓄積した感触を、教えてあげたい、まさしちゃん元気を、渡してあげたい。

「電車は、すぐ、動くから。」

と、ゆうこ、あさこに優しく手をかざす。

あさこ、イヤホンをするが、音楽を聞いているわけではない。

ゆうこ 隣の女の人は音楽を聞き始めた。まさしやんのミュージックパワー……。

あさこ、イヤホンを外し、ゆうこを注視する。

しずか 人身事故があつたけれど、もうすぐ復旧する、という旨のアナウンスが流れた。

ゆうこ (アナウンスを聞いて、自分の手を掲げて) まさしやんの、ミュージックパワー……。

あさこ、ゆうこを気にして

あさこ ねえ、

ゆうこ (気づかない)

あさこ ねえ。

ゆうこ (気づかない)

あさこ あー！

ゆうこ ……？ は、い？

あさこ おと。

ゆうこ え？

あさこ 音量。考えた方がいいんじゃないですか？

ゆうこ え？ あ、あ、ごめんなさい…。

間

あさこ ……あの。

ゆうこ はい？

あさこ ……なんて言うんだっけ、そのグループ

ゆうこ え……？（うれしそう）

あさこ 名前がここまでできてんに気持ち悪くて

ゆうこ セキュリティボーズの、ことですか？

あさこ ああ、そうだ、そのださい名前。

ゆうこ セキュリティボーズのことですか！？

あさこ え、うん

ゆうこ ……興味、ありますか…？

あさこ 全然。……知り合いが、多分ファン。

ゆうこ その方は、まさしやん推しですか……？

あさこ ん？ なにしやん？

ゆうこ 私はまさしやん推しなんですけど、たつくと、ゆつきーと、まさし
やんと

3人おりました、お知り合いは誰推し、かな、と。

あさこ さあ、私よく知らないから。なんか背が一番高いとか言ってたけど。

ゆうこ たつくんですかあ。

あさこ いや、知らないけど。

ゆうこ あの、もし良かったら。わたし、これ、たつくんの名前が入ったピン
バッチ、この前抽選で当たったんですけどお知り合いの方にぜひ。わ
たしは、まさしやんのがあればいいので。

ゆうこ、あさこにピンバッチを渡そうとする。

電車が発進する。

しずか （小声で電話）あ、すみません、全然大丈夫でした。今動いたんで、

はい、間に合いそうです。はい、失礼いたします。

ゆうこ （小声）まさしやんパワー…

あさこ え？

ゆうこ あの、これ、あげます。

あさこ え、いらぬいよ。

ゆうこ いえ。もらってください。

あさこ いいって。

ゆうこ どうぞ。たつくんは、昨日誕生日だったので。たつくんグッズが、あ
るべき所にあるということは、たつくんの幸せ、それは即ち、セキユ
リティボーイズの幸せ、それは即ち、まさしやんの幸せ、なので。

あさこ ……あ、そう……なんかよく分かんないけど、どうも…。

ゆうこ あ、私は降りないとは、たつくんファンさんによるしくお伝えく
ださい。

あさこ ……。

あさこ、手にしたピンバッチを見つめる。

○ あさこ、妹の回想

♪君は、ゆでたまご、ぼくは、白身かな？

君は、ゆでたまご、ぼくは、白身だね！

君は、ゆでたまご、ぼくは、白身だぞ！

ゆでたまごの君をぼくがつつんであ・げ・る

半熟の君をそとつつんであ・げ・る♪

あさこ だっさ。何それ。

妹 かつこいいでしょうー。

あさこ そんなの流行ってんの。

妹 セキュリティボーイズ、人気やばいんだよ。

あさこ 名前もやばいね。何、自宅警備員？

妹 違つよ、女子を守ってあげるがコンセプトなの。流行の草食系じゃな
く。

あさこ そう。みんなは？

妹 たつはサッカー。父母は結婚記念日デート。

あさこ へえ。

妹 でも、もうすぐ帰ってくると思うよ。

あさこ そう。

妹 みんなお姉ちゃんのこと心配してたよお

あさこ ん、なんで

妹 全然顔見せないから。

あさこ 忙しいの、研究。てかこうやって来てるじゃん、ちゃんと。結婚記念

日パーティ。

妹 何も無いときに顔見せてほしいんでしょ。離れて住んでるわけじゃない

いんだし。私だつてずっとこの家にいる訳じゃないし

あさこ え、引越すの？

妹 今日ちゃんと言おうと思つてたんだけど。年明けからかな、長野に住

むんだー。

あさこ え、結婚すんの？

妹 うん。

あさこ …へえ。

妹 だからさ、ウエディングドレスに向けて最近めっちゃカラーゲン飲んで

るんだー。どう？ 効果出てる？

あさこ カラーゲンは飲んでも身体に摂取されないよ。

妹 え！ そうなの！ 通販で高いやつ買ったのに！

あさこ いいカモだね。

妹 ねえ、お姉ちゃんも早く結婚してさ、みんなで旅行いこうよ。

あさこ わたしは、そういうのはないよ。

妹 でも、お姉ちゃんが30までに結婚してくれないと、ひ孫の顔見る前

に死んじゃうーつておばあちゃん、言つてたよー。

あさこ あそう。

電車が、終点の渋谷駅に到着する。

あさこ あ、渋谷まできちゃったよ…。

あさこ、電車を降りていく。

○ 渋谷、さやの Apparel ショップ

さや

わたしは昔から、よく、ジンクスというか、占いというか、この後のことが、どうなるのか、どうであればいいのか、運に任せて、賭けをする。賭け、といっても大げさなものではなくて、たとえば、このティッシュがゴミ箱にちゃんと入ったら、明日告白するんだ！とか、この信号を渡り終わったときの足が、右足だったら、次は、沖縄で働いてみよう、左足だったら北海道にしよう、とか、そういう感じで。なんか、オカルトチックに聞こえるけど、でも、やっぱり、そういう賭けとか占いに頼って、自分の行動を決めてしまいたくなる時もある。昨日から、私の頭の中はというと、もうずっと同じことを考えたまま、同じところを行ったり来たりで、同じ光景ばかりを浮かべながら、店の服を折り畳んでは戻す、折り畳んでは戻す、を機械的にやっているんですけど、はい？（店長に呼ばれ振り返る。）……どうやらさつきから店長が畳んだやつを畳直す、というのをやらかしてしまっていたらしい。

間

さや

正直！ 今、私のこの懸案事項について考えると、仕事とかしてる場合じゃなくてはい！（店長に呼ばれる。）

客のあさこが服を選んでる。

さや

……いつの間にかお客さんがいた。店長は、接客しないんですか、あなた働き始めて二ヶ月で既にやる気ないんですか、という目線を送ってくる。ワンピースを2つ持って、迷っているお姉さん。(あさこを凝視する)……そうだ、このお姉さんで、いつものように賭けをしよう、思い立った。もし、お姉さんが、緑のワンピースを買ったら、私は、崎田さんには会わない。お姉さんがどちらも買わなくても、私は、崎田さんには会わない。もしお姉さんが紺のワンピースを買ったら、私は、崎田さんに最後に、一度だけ、会う。

あさこ

大きい襟のようなものがついている緑色のワンピースにするか、紺色のテロテロした生地のワンピースにするか、さつきから鏡の前で、何度も交互にこの二つの似たようなワンピースを自分に照らし合わせてみているけれど、このワンピースのどちらも買いたくて迷っているわけではない。

さや

お似合いですね。

あさこ

あ……。

さや

“ やっぱ話しかけられたなあ、できれば一人にしといてくださいな ” というおなじみの空気を笑顔で包んでやんわりと受け流して、この紺色のワンピースは最近入荷したばかりの新作だけれども、すでにかなり売れているんですよ、ということを伝えた。

あさこ

あの電車のアイドルオタクのせいで、つい渋谷まで乗り過ごしてしまっただけれど、渋谷にわざわざ来ることはないし、どのみち明後日までには用意しないといけないから、と、しぶしぶ入ってみたこの店だったけれど、店内の白を基調としたこの清廉潔白な感じ、ここに立ち入るものの評価基準を明確に設けているような、空間のその高圧的な態度とか、至る所にある鏡、鏡に反射する光、眩しさ、あなたが主役なんですよ、さあ、輝いた女性達よ立ち上がれ！ そしてこのステータスのあるお立ち台に乗って、堂々と愛想を振りまき、回転寿司のごとく、くるくるくるくるランウェイを闊歩せよ女達！ と迫ってくるき

さや

らびやかさに加えた、この店員さんの笑顔と勢い、隙間なく構築された購買促進エネルギー。すべてのことが落ち着かず、私は冷や汗をかきながら判断能力を失い、交互に、何度も鏡の前で二つの服を合わせてみる行為を繰り返している。どちらも似合っているとは思わない。ほら、やっぱり、紺の方が、お似合いですよ。

あさこ

紺でも緑でも本当になんでもいいので、さっさと買って帰ろう。

当日に、家族としての体裁が整えばいいのだから。

さや

襟元の形がちよつと違うんですけどー、と前置き、紺色のワンピースの方が、いかに使い勝手がいいかをアピールする。普段使いで、例えばデートの時に、ちよつと井の頭公園行ってポート乗ろうよお！みたいな漫画のようなお決まりな初デート！ に行くときでも、ふんわりスカートで可愛く決まればちりですし、例えば例えば、メキシコ人が主催するホームパーティーかなんかに呼ばれたときに、大勢で騒いで、もみくちゃになって、いやあ、今日はテキーラ飲み過ぎてなんだかもうへべれけになっちゃって、今の段階で正直もう記憶とかあんまりないけど、今日はこのままクラブに行っちゃおう！ お酒に任せ踊っちゃおう！ ヨーヨー！ みたいなときにもセクシー感満載でインターナショナルにも対応していますし、例えば例えば例えば、五十年代前半のレオン読んてるような男性と、軽く和食を食べた後、この近くに夜景が綺麗なところがあるんだよ、とかの定番の口説き文句にまんまとついて行って、そのままホテルの最上階のバーに行つて、三杯ほどカクテルを飲んだ後に、火照った身体でぼんやりと、あ、終電の間が近づいてくるけども、これ、どうするの？ まさかこのまま帰るとかじゃないよね、え、その決定打はいつ打たれるの？ とかこつちがやきもきしてる時に、さつと会計をすませるさすが五十年代前半、そしてさりげなくホテルの鍵603号室をチラッと見せ、エスコートしてくる五十年代前半！ 的な、一昔前のテンションでバブルへGO！ なときなんかにもチヨイ悪ラグジュアリー感たっぷりですし、オールマイティに、至る所で、ところかまわず、どここでも、もう、好つき

なだけ、着ていけるんですよ！ たしかに、緑のワンピースも、人気
つちや人気なんですけど、まあ、結婚式とか、何かしら立食パーティ
ーとか、ちょっとフォーマルな時に、限定されちゃうかもですねー。

今のところデートの例えしか見当たらないその店員さんのエネルギーた
るやものすごく、今日は変な人によく会うなと思いつながら、とりあえ
ず申し訳ないが、私が今買おうとしているのは、デートとかのそうい
うあれではなくって、結婚式に出席する用の服で、できるだけシンプ
ルな、フリルとかついていない、あまり女をむき出しにしていない、
装飾の少ない、むしろ布に近いようなものを探している、ということ
を、伝えた。

さや
まさかのピンポイントで結婚式用の服を選んでいる、ということを聞
き、私は路線を変更する。

あさこ
じゃあ、緑ですかね…

なるほどですね、結婚式！といえば出会いの場ですからね、私も、今
好きな人との出会いはこの前の友人の結婚式だったですから、崎田さ
ん…ああいう環境は、目の前に、幸せの象徴のような演出された、模
範解答のようなものが中心にディスプレイされていますから、あ
の、高砂とやらに。やっぱりそれは、皆幸せな祝福する気持ちと羨ま
しさが相まって、着飾ってお酒も入った高揚感で盛り上がりますか
ら。つまりそういう意味では、これは、かなり重要な場であると。で
すから、こっちの紺のワンピースで、ちよつと、人とは違うな、と。
おやおや、あの人が着ている服は、よくあるザ・パーティー感ではな
いな、程よく肩の力が抜けてるな、ムムム！おしやれだな！感を粹に
演出して、お姉さんのこれからの良き出会いに持ち運ぶっていうのは
どうでしょう。試着室はこちらです！（強引に試着室に連れていこう
とする）

あさこ
試着は大丈夫です、あと、大丈夫です全体的に。女性服の店員さんつ
てこんなに押しが強いものなのかと驚きながら、試着を断固断った。
着替え終わるのを待たれるというプレッシャーの中で着替える、とい

うストレス、その尋常じゃないストレスを抱えたことよって噴出する私の冷や汗が服に付着するかもしれないというストレス、そしてその似つかわしくない服の案配を自分で推し量り、場合によっては店員さんに推し量られなければいけないというストレスが重るような、そんな大きな一歩を私は踏み出せない。

間

さや

コン！ やっぱり紺の方がお似合いだと思いますね、確実に。100パーセント。これ、いまだっただら表示してある価格から50%OFF！ わたし自腹でやっちゃいますし、どうですか、紺。お似合いだと思いますよ本心から、愛をこめて、紺、いいと思うなあ、ほんとこれいいと思いますけどね、買いませんかね、紺、どうですかね、わたし最後に崎田さんに会っちゃだめですかね、見苦しいですかね、会うべきかどうかも分からないけれど、会わずにはいられなくて、どうですかね、紺、お姉さんにかかっているんです。お姉さん、どうなのか教えてください！

間

あさこ

…どちらも買います。 と言って、店を出た。

店内に残されるさや。

さや

ありがとうございました…。両方…。でも、紺は買ってるから…。でも、緑も…この場合は…えっと…あれ…店長！ 体調が悪いので今日は早退します。

○ 渋谷、八千公前のまき

交差する人、その中にあさこ

まき

あのお姉さんも、見てくれたかしらん、このおっさんも見てくれたかしらん…この、トボトボ歩いてるおばあちゃんかて見てくれたかしらん。ほお…。TVってすごいなあ。全然連絡取ってへんかった友達からもメール来たし、ブログにも、見ましたよってコメントくれた人おったしなあ。全部で、何人見てくれはったんやろなあ。みんな、どこで笑てくれたかなあ、ドカーンてなつてたらええなあ。なあ、もう、どうよハチ公！（ハチ公をどつき、ハチ公と腹話術師のように会話）

〈ワンワンあんたが大将！〉ハチ公、もっとほめてほめて！

〈まきちゃんが一番おもしろいワン！〉ふふふ。そうかな。

〈まきちゃんはこの一年以内にブレイクするワン！〉ふふーん。

〈まきちゃんが世界で一番おもしろいワン！〉それは言い過ぎー。

〈ワンワン〉でも、ハチ公はんがそうやって言うんやったら間違いないわなあ、

〈ハチ公、嘘つかんワン〉せやな！そーいや、うちの芸名が決まったのは、産まれて初めてハチ公で待ち合わせして、社長にトンカツ食べに連れていってもらった時やったなあ。

〈ワンワン！まきちゃん、いっちょここで、そのエピソード落語調でお願いしまひよか〉ええ、んもう、ハチ公はん、乗せ上手やなあ。

出囃子が鳴り、まき、高座に座る

まき

名前というものは、皆さん、それぞれもっておるものですが、不思議なもので、名前がその人に寄っていくのか、その人が名前に寄って行くのか、「あー、ぽいぽい、あなたその名前ぽいー」なんて思うこともしばしばあります。昔で言いますと、「花子」だとか「良子」だとか、

女の子には最後に「子」をつけるっちゅうのが多かったわけですが、最近では時代も変わり、「どれみちゃん」「きていちちゃん」「さふあいあちゃん」、なんて変わった名前がつけられる女の子もいるみたいですけども：「どれみばあさん?」、「きていばあさん?」、「さふあいあばあさん?」：お呼びですか（老婆の声で）その子の将来を思うと、やっぱり自分はスタンダードな名前がええなあと思ったりします。しかし、芸人となるとそうもいかない。名前にも、ある程度インパクトが必要なようで。上京して間もない頃、私は事務所の社長に連れられ、渋谷の道玄坂をちよいとのぼって路地を入ったところにあるトンカツ屋さんに入りました。わあ、美味しそうなトンカツ。社長、いただきますう、

「おお、いっぱい食べなよまきちゃん、東京で、これからがんばるな」といいけないんだからさ」
はい！

「トンカツ食べて、芸能界で勝つ！はっはっは、勝つ！」
…勝つ。

「まきちゃん、ところで芸名、どうしようか。」

はあ。一応今は、コンビ組んでたときのまま、まきたまきこでよろうかと思ってますけど…。

「でも、ピンでやっていくんだったら、もっとインパクトある名前にしないと。」

ああ、そうですねえ…：どういいうのがいいでしょうかね？

「あなた、イメージ的には横文字なんだよね。」

え、横文字？ですか？…私がですか？

「うん、どうみても横文字」

はあ。どうみても横文字ではない私に、何を言うてんねやると、トンカツを頬張っております。すると社長が突然平手を打ち、

「決まった。」

はい。

「行くわよ。」

はい。

「ターメリックまきこ”でいきましょう！」と、人差し指を立てまして、

ターメリック：カレーのですか？あの…ターメリックは…なぜ…？

「白いごはんといい日本のお茶の間に、あなたの味をつけるんや！日本中、ターメリックまきこの笑いで、ターメリック味にするんや！」
なんでそこ関西弁やねん。しかもターメリックライス、あんま味ついてへんで。色だけやで。チキンライスとか、炊き込みご飯とかのがまだ味ついてるで、と思う事はたくさんあったのですが、

「ゆみちゃんいないとまだ不安かもしれないけど、がんばりましょうー！」

と、社長は私の手を固く握って、私は心新たにターメリックまきことして活動することにしました。

どうもターメリックまきこです、ナマステはいはいー言うてね、やらしてもうてますけど…

ハチ公達

（お笑い番組のジングルを歌う）

まき

どうもーエスケープです、はい、さいなら、帰るんかい、帰りませんよー。いやあ、ゆみちゃん、私ちよつと最近ヨガに興味でてな、そう、ヨガ。なんでーな私かてヨガくらいするよ。やったるか？

これが、戦士のポーズ。

コンビ名通りエスケープしてしもたゆみちゃんと、あのまま一緒に芸人やっていこうってなつてたら、うちは今、どうなつてたかなあ。もつと売れてたか、芸人辞めてたか。関西の地銀で働いているゆみちゃん、と、東京の芸人ターメリックまきこ。1LDKに住むゆみちゃんはきつとアロマとかを焚いて、トイレもええ匂いがするはず。ターメリックまきこのワンルームに風呂はなく、トイレも共同。ゆみちゃんの

家は、花の、ポプリとかを、飾ってるやろなあ。芳香剤とか、ああい
う生活臭が漂うやつは置かへん。誰か家に遊びにきたときには、珈琲
紅茶のほかには、オレンジベルガモットティーとか、長い名前のティー
が用意されている。ちなみにパンティーは丸めてしまう派。きつと、
彼氏と一緒にUSJでとった写真とかが窓際に置いてあって、「なあなあ
あ、あれうちら撮ったんいつやつけー」、とゆみちゃんはその渋谷すば
る似の彼氏に甘えた声で聞いて、「おお、それ、もう、2年前ちやうけ
ー?」、「え、そんなたつー?光陰矢の如しや〜ん」、みたいなやりとり
をしながら、金曜夜7時から二人で快傑えみちゃんねるを見もって、
「やっぱ、上沼恵美子は天才やな」とか言うてんねやろうと思う。な
あ、ハチ公！（ハチ公をどつく）
人生色々、島倉ちよこー！ ゆみちゃん、うちのOA見たら、笑って
くれるかな。

拍手。まき、ネタをやり始める

まき どうもターメリックまきこです。ナマステハイハイ。言うてね、
やらしてもうてますけども

○しずかの職場

しずか、動画（ターメリックまきこのネタ）を早送り。一時停止。

しずか これで終わりだよな？え、なんで若手芸人？ ビールだからなんとな
く明るい感じで、なんとなくシユールな感じを狙えば目新しいと思っ
た？ 君、この企画のターゲット考えた？ この若手芸人達のファン
ってどの世代なの？ てかそもそもまだこの人たちテレビ出るか出な
いかのレベルだよな。仮にこの人たちを応援している層がいたとし
て、それって若い人たちだよな。今の若い人、ビール、飲まないよ

ね。20代が一番ビール飲む割合低いよね。みんなチューハイだよ
ね。それは分かるよね？ あの子、クライアントあつての仕事だから
さ、こういうのやりたいとか、その前に、これが、売れるかどうかだ
から。わかる？ 自分が何やりたいとかじゃなくて、お金がどう回
るか考えて、

声 南方さん、明日朝イチまででお願いした見積書、まとめた？

しずか もうまとめてフォルダに入れてあります

声 南方さん、急ぎなんだけど、今からデザインの了解もらいに走ってく
れない？

しずか すぐ行きます！

声 南方さん、先方に連絡は？

しずか しました！

声 南方さんメールは？

しずか 送ってます！

声 南方さんアポは？

しずか とりました！

声 南方さん！

しずか はい！

声 南方さん！

しずか はい！

声 南方さん！

しずか はい！

声 南方さん！

しずか はい！

声 ミナカタさん！

しずか はい！

声 ヒジカタさん！

しずか はい！

声 オオタイサン！

しずか はい！
声 太田胃散！
しずか はい！
声 太田胃散！
しずか ありがとう、いい薬です！
声 を、フィンランド語で言うとは？
しずか きーとす、たまおん、ひゅばらーけ
声 フィンランド大使館があるのは？
しずか 東京都港区南麻布3丁目5-39
声 日本で一番長い地名は？
しずか 愛知県海部郡飛島村大字飛島新田字竹之郷ヨタレ南ノ割！
声 あ、ごめんなんて？
しずか 愛知県海部郡飛島村大字飛島新田字竹之郷ヨタレ南ノ割！
声 あ、ごめん電波悪くて
しずか 愛知県海部郡飛島村大字飛島新田字竹之郷ヨタレ南ノ割！
声 伊勢志摩と言えば！
しずか 修学旅行！
声 岩下志麻の！
しずか 極妻シリーズ！
声 瀬戸内
しずか 寂聴！
声 坂東！
しずか 英二！
声 センダ！
しずか センダ！
声 センダ！
しずか センダ！
声 センダ！
しずか センダ！
声 センダ！
しずか センダ！

声 センダ！
しずか センダ！
声 センダ！
しずか センダ！
声 センダ！
しずか センダ！
声 ミツオ！
しずか ナハナハ！
しずか …だから、お金がどう回るか、考えて。このビールが、売れるかなの。

○ナヤの家

さや ビールを飲む。全然好きじゃないけど。結局、崎田さんに今日の夜会えないかとメールを送った。まだ返ってこない。この懸案事項について、崎田さんの前に、あいつ、一週間前まで付き合っていたあいつに話さなくてはいけない、気もするんだけど、でも、崎田さんに会わないと進めない気がする。崎田さんに何か言いたいわけではないんだけど、いや、言いたくない訳でもないのだけれど。…なんとなく、重い、気がする。(お腹を触りながら)でも、気のせいかもしれない。それまで何も思わなかったのに、事実を知ってから、重い気がするのだから。世の中の、どれくらいの人たちが、まっとうに愛しい、まっとうに準備をされた結果、産まれてきたのだろう。どれくらい母が、まっとうな母なんだろう。私はどうだったのか。母の顔は忘れてしまったけれど、

○母踊り

ハッハ、ツハッハ！ツハッハ、ハッハ！　ハッハ、ツハッハ！ツハッハ、ハッハ！

母と子一つ母踊り！　へその緒ひとつで繋がって！

ハッハ、ツハッハ！ツハッハ、ハッハ！　ハッハ、ツハッハ！ツハッハ、ハッハ！

母さん母さんなぜ泣くの？　産まれてくるのが嬉しいの？

ハッハ、ツハッハ！ツハッハ、ハッハ！　ハッハ、ツハッハ！ツハッハ、ハッハ！

母さん母さんなぜ泣くの？産まれてくるのが悲しいの？

ハッハ、ツハッハ！ツハッハ、ハッハ！　ハッハ、ツハッハ！ツハッハ、ハッハ！

母さん母さんこんにちは、私の父さんどこですか？

ハッハ、ツハッハ！ツハッハ、ハッハ！　ハッハ、ツハッハ！ツハッハ、ハッハ！

母さん母さんこんにちは、私はあなたとつながって、

母と子一つ母踊り！

ハッハ、ツハッハ！ツハッハ、ハッハ！　ハッハ、ツハッハ！ツハッハ、ハッハ！

ハッハ、ツハッハ！ツハッハ、ハッハ！　ハッハ、ツハッハ！ツハッハ、ハッハ！

ハッハ、ツハッハ！ツハッハ、ハッハ！　ハッハ、ツハッハ！ツハッハ、ハッハ！

○ゆづりの幼稚園

母踊りが、だんだん園児達の戯れに

園児1　違うよーもつと手伸ばすんだよ

園児2　私の方が上手（じょうず）もーん

園児3 いーたいー！

園児4 あー泣かしたー

園児2 泣かしてないよー何にもしてないもんー

園児4 先生言うよー！

園児3 あやまつてー

園児1 変な日本語っ！

園児3 変ちやうもん

園児4 そういうの言っちゃいけないんだよー！

ゆうこ みんな、今日は一段と元気…。これも…まさしやんのミュージックパ

ワー！ほら、

走ると怪我するよー。ちゃんとお約束するうねー。

声 ゆうこ先生、ちよつと、なつちゃんのお母さんが先生にお話したいつて

ゆうこ はーい。あ、こんにちはー。

母 こんにちは。先生、ちよつとお尋ねしたいんですけどね。

ゆうこ はい、

母 最近うちの子が変な歌を歌ってまして。ゆでたまごがどうかかって。

ゆうこ 聞いたら、先生に教えてもらったって言うじゃないですか

母 あ、はい、なつちゃんがお弁当の、ゆで卵だけ残そうとしてたことがあつて、つい…。歌って楽しくなったら、食べるかな、と思つて。

母 先生。別にね、それが普通の、幼稚園児が歌うような歌やつたら、かまわへんのですよ。あんな低俗な曲を教えんといっていたきたいんです。

ゆうこ …でも、良い曲なんですよ、愛のある…

母 でも、こどものために作られた歌じゃないじゃないですか？幼稚園で歌う歌ではないでしょう？

ゆうこ ……。

母 それは、先生の個人的な趣味を押し付けてるつてことになりませんか？

ゆうこ いえ、そんなつもりは…

母 家で歌っててね、恐ろしなるんですよ、半熟の君を包むやらなんやら、卑猥なことばかり…

ゆうこ あ、半熟の君を包むっていうのは、か弱い乙女心を守る、っていうことで、いやらしい意味では、全然無くて、ほんと勇氣づけられる…
母 先生、先生ももう良い年でしょう。先生の仕事は、汚いことから、危ないことから、子供を守ることじゃないんですか。

ゆうこ はい、

母 余計なものに、触れさせないようにするのが、役目でしょう。

ゆうこ …はあ、

母 あら、何か間違ってます？

ゆうこ いえ、もちろん、子供達は守りますけど、それは当然ですけど…でも、全部に全部、触れさせないようにするというより、子供達に選ばせるというのも大事なな、って

母 それは子供が怪我するのを黙ってみてるっていうことですか？

ゆうこ あ、いえ、そういう意味ではなくって…

母 あのねえ、先生は実際に自分のお子さんがいらへんからそういうことと言えるんですよ。

ゆうこ え……。

母 だってそうでしょう

ゆうこ ……。

母 子供を心配する母親の気持ちは、母親にならんと分かりませんから。

○ 交差

しずか

今日の仕事は、奇跡的に早く帰れそうなので、久しぶりに洋ちゃんに連絡をする。もう三週間も会っていなかった。今日は私がごはんでも作ろうかなあ、なんて思っていたところ、今日は、ちよつと夜から予定が入りそう、と連絡が返ってきた。

さや 崎田さんから連絡が返ってきた。今日の夜、大丈夫だよ、と、つまり、本当に会うことになってしまふ。だんだん最後が近づいてくる。今日は念入りに化粧しよう。いや、そんなことじゃなくて。ビール一杯で既に顔が赤い。とりあえず、先にお風呂に入って、

まき お風呂から出て、私はいつものように全裸でネタをする。姿見の前で、産まれたままの姿で。いろんな恥とか、しがらみ、雑念を捨てて、芸に集中する。わたしを照らす、ステージの光。客席には満員のお客さん。私の呼吸に合わせて、引いては押し寄せる大爆笑。それをテレビ越しに見ている、一億二千万人の人たち…芸人や。今から、ファミレスの夜勤で働くけど、私は、芸人や。どうも、どうも、どうも、ターメリックまきこです！

○あさこの研究室

研究室の先輩達がリズムにのせて歌っている。

先輩達

A細胞、B細胞、C細胞、D細胞、E細胞、F細胞、G細胞、

じー細胞、じー細胞…ずいーずいずいずところばし ごまみそずい
ちやつぽにおわってとつびんしゃん ぬけたらどんどこしよ

A細胞、B細胞、C細胞、D細胞、E細胞、F細胞、G細胞、じー細胞、
ずいーずいずいずところばし ごまみそずい ちやつぽにおわ
れってとつびんしゃん ぬけたらどんどこしよ たわらのねずみが米
くってちゅう ちゅうちゅうちゅう…

あさこ、 買い物袋を携え、こっそり研究室に入る。

あさこ

おつかれさまでーす

先輩ー

あれ、珍しいね、買い物？

あさこ

いや、まあ、あ、今日解剖、手伝ってもらっていいですか？

先輩2 何買ったの？
あさこ あ、いやいや、たいしたものじゃないんで。
先輩3 え、なんか食えるもん？
あさこ いや、プライベートなあれなんで
先輩4 なんだよプライベートって

あさこ、買い物袋奪われる

あさこ あ、ちょっと！
先輩1 え、ワンピース。
先輩2 え、ワンピース！
先輩3 え、ワンピース！？
先輩4 え、海賊王に俺はなる！の方じゃないよね。
先輩1 海賊王のが似合ってるなあ。
あさこ あの、
先輩3 お前スカートなんかはいてんの見たことないけど。
先輩4 なんで？どうしちやったの？デート？
先輩1 彼氏できたの？
先輩2 まじか！
先輩3 まじか！
先輩2 解剖どころじゃないだろ、事件だろ！
先輩4 事件だな。
あさこ できてません。
先輩2 なんだよ。
先輩3 だよなあー。(先輩1、4と同時に)
先輩1 まさかなー。(先輩3、4と同時に)
先輩4 まあ、だよなあ。(先輩3、1と同時に)
あさこ あの、

先輩4 え、でもこのワンピースさあ、なんで？いつ使う？どこで？誰と？どんな風に？

先輩1 5W1H全部聞いてんじゃん。

先輩2 3 聞き過ぎだろ。

先輩4 気になるだろ

あさこ 結婚式が。…あるので明後日。妹の。

先輩達 ……妹いんのかよ!!!

あさこ ええ、まあ。

先輩2 早く言えよ。

あさこ なんですすか

先輩3 ちよつと、紹介して…

先輩4 結婚するんだろ。

先輩1 妹、何してる人？

あさこ 看護師です。

先輩達 おおおおおおおお。

先輩2 きた。

先輩3 きましたね。

先輩4 やばいね、妄想膨らむね。

あさこ なんのですか。

先輩1 え、まさかだけど、可愛い？

あさこ 可愛いですよ。

先輩3 写メ写メ写メ写メ…

あさこ 持ってないです

先輩4 まあでも、こいつも、顔立ちだけは一応整ってるからなー。

先輩1 まあ一応なー。

先輩2 こいつを女にしたと考えたら悪くないよね。

先輩3 てかナースだからな、ナース。

先輩4 だから、こいつに、ナース服を着せたと考えて…。

先輩1 あ————。

先輩2 はいはいはいはい。

先輩3 なるほどね。

先輩4 なるほどね。

先輩1 お前も、研究室で白衣じゃなくて、ナース服着ればいいのに。

先輩2 あー、それいいですねえ。

先輩3 ちよとやる気でもかもなあ。

あさこ 馬鹿な男は、食中毒になって、ポツリヌス菌にでもやられて、全員死ねばいいと思う、切実に。

○ 交差

しずか 玄関を、出る。洋ちゃんから、今日は帰るの、遅くなると思う、と連絡が来たけど、とりあえず家に行って、帰ってくるのを待つことにした。電車で、洋ちゃんの家に向かう。

さや 崎田さんに会うまであと少し。下地、ファンデーション、チーク、アイライン、シャドウ、マスカラ、口紅、グロス、

まき 玄関のドアに貼られたホワイトボード。「あと、223日やで。」と書いてある。それを消して、「あと、222日やで。そろ目。」と書いた。私の、30歳までのカウントダウン。玄関を、出る。

ゆうこ 今日は金曜日なので、もう一つの仕事へ向かう。初めての駅で、降りた。

あさこ 馬鹿な先輩達に手伝ってもらうのは諦めて、一人でマウスを解剖する。夕食のいわしをさばくように、マウスのお腹を切り開く。私と同じように、内蔵がつまっているマウスを切り開く。

○ あさこ、細胞について

あさこ以外の4人、塩基になる。

あさこ あらゆる生物の遺伝情報を担っているDNAは、4つの塩基、アデニン

アデニン はい！

あさこ チミン、

チミン はい！

あさこ シトシン、

シトシン はい！

あさこ グアニン、

グアニン はい！

あさこ から成り立っています。この4つは、A、

アデニン はい！

あさこ T、

チミン はい！

あさこ C、

シトシン はい！

あさこ G、

グアニン はい！

あさこ と略されます。Aは、

アデニン はい！

あさこ Tと、

チミン はい！

あさこ Cは、

シトシン はい！

あさこ Gと、

グアニン はい！

あさこ 水素結合をしてペアになり、二重螺旋構造を作り出しています。人間の遺伝情報は、A T C Gの30億個のペアから成り立っています。

A T, T A, C G, T A, G C, G C, A T, C G...と続くこの配列は、人間とチンパンジーでは、約2%の違いがあり、人間の個人個人

の間では、約0.1%の違いがあります。この配列の違いが、顔かたちや性格、体質の多様性を生み出しています。産んで、生まれて、立って、歩いて、歩いて、歩いて、歩いて、産んで、生まれて、立って、歩いて、歩いて、歩いて、産んで、生まれて、立って、歩いて、歩いて、歩いて、歩いて、歩いて、歩いて…

○5人の交差

しずか 電車を降りて、駅前のロータリーを横切って、右手にある大通りをまっすぐ歩き、そこから信号を渡って、4つ目の角を右に曲がったところにある、洋ちゃんのマンションまで歩く。

まき 自転車で、一駅となりの駅前のロータリーを横切って、マクドナルドの上にあるファミレスへ向かう。このファミレスで、いかにお腹をすかせて、いかにまかないを食べるか、が重要。キッチンの袴田さんは、無口やけど優しく、うちにいつも大盛りをよそってくれる、私は、野菜大目を希望する。このファミレスで、生活費と、栄養を摂取。

ゆうこ 地図を見ながら、駅前のロータリーを横切って、マクドナルドの前を通って、そのまままっすぐ歩いて左に曲がった3つ目の角にある、公園の裏手、8階立てのマンションへ向かう。301号室。

今日は6カ月の乳児と聞いた。私は週に一度、金曜日の夜に、誰かのかりそめの母になる。

あさこ 「あ、うん、帰るけど、研究、おわんなくて」電車に乗って実家へと向かう気分になれず、駅前のマクドナルドでLサイズのポテトを買い、ロータリーに座った。

さや 喫煙場所で煙草を吸っている崎田さんが、こつちを向いて、手をあげた。

しずか 合鍵で入る、いつもの部屋、いつもの匂い、目に入ったカレンダー、「2013年」という文字をなんとなく眺めて、もう洋ちゃんと出会

って、4年になるのか、と思った。ほー。長いですねえ。TVをつけると、

CMの声「秋には、さんま、秋には、マツタケ、秋には、秋しほり、秋だけど秋だけど 絞りたい♪」

しずか テレビの中では、中堅の女優が、治まりよく、ビール片手に微笑んでいた。

○公園付近のさやとしずか

さや 崎田さんの家の近くの、公園のベンチに、二人で座った。

しずか ベランダに出て、煙草を買ってくるのを忘れたことに気付いた。散歩がてら、コンビニまで買いに行くことにした。

さや 居酒屋に行こうか、と誘われたけど、なんだかそんな気分にはなれなくて、公園がいい、と言った。二人で腰をかける夜の、ベンチ。

しずか 今日は、ぼんやりとした丸い月だった。

さや 崎田さんも私も、ただ、夜の音を聞いていた。

しずか コンビニの手前の、公園を通りすぎる。遠くに見覚えのある顔が見えた。…洋ちゃんが、誰かと一緒にベンチに座っている。

さや 崎田さんが、今日は、満月かなあ、と言った。

しずか 公園、ベンチ、二人…。今日は遅くなる…。とりあえず煙草を買おう。

さや 見上げた月は朧月だったから、満月かどうかは分からなかったけど、綺麗な月だった。

しずか 煙草を買って、来た道を引き返す、のを辞め、そのまま駅の方へ歩いていった。煙草を買ったのだから、どこかで煙草を吸えばいいのだ、とりあえず。駅前の、ファミレスへ入った。

○ファミレス、しずかとまき

まき いらつしやいませ。喫煙席と禁煙席とご希望ございますか？

しずか 喫煙席で。

まき ご注文がお決まりになりましたら、こちらのベルでお知らせくださいと立ち去ろうとする店員を呼び止め、なんでも良かったので、メニューを開いて、一番最初に目に入ったクラムチャウダーを注文した。

まき かしこまりました。ごゆっくりどうぞ。

しずか 煙草を、吸い込む。公園、ベンチ、二人というキーワードは、別に決定的な浮気現場ではないけれども、さつき声をかけられなかったのは、その間に流れる、男女の空気のようなものを感じたからじゃないかだったのか、どうなのか。一旦そう思い始めると、さつき部屋に入ったときに、なんか違和感があったような気もしてくる、家具が一ミリずつずれていたような、枕の位置がいつもより右側に寄っていたような、私じゃない髪の毛が落ちていたような、

あさこ あなたが、今日のこの日を、迎えられたことを、えー、あなたが、今日のこの日を、こんな風にみなさんに祝福されて、友達に、家族に、見守られて、迎えられていることを、わたしは、…

しずか 駅前のロータリーには、女の人が、このファミレスの下のマクドナルドで買ったのだろう、ポテトを、ぼんやり食べていた。私が初めて洋ちゃんの家に行ったとき、もうそれは四年も前のことだけど、そのときも、この下のマクドナルドでポテトを大人買いして、たしかしサイズ4個と、T S U T A Y A で D V D を大量に借りて、コンビ二で炭酸という炭酸のジュースを籠いっぱいに入れて、「お酒じゃないのかよ」とか、「パジャマパーティーみたいだね」とか、「ベッドの上でポテト食べよう」とかなんとか呑気にはしゃぎながら、洋ちゃんの家に向かった、のだった。最近会えなかったことが原因なのか、それともそれよりも、もっとずっと前に原因があつて、もっとずっと前から、水面下で何かしら着々と進行していて、たまたま運悪く今日、私がその潜水艦がぼっこり浮いた頭を目撃してしまっただけなのか。ほんのことなんて、知らないけど。わたしも大人だし、それなりの狡さもわき

まえていると自負しているし、一応四年も一緒にいる、という形を維持してきた中で、アクセシビリティの一つや二つや三つや四つくらい、それはもちろんあるだろうと、きっと実際あっただろうし、そして今現在あったということなんだけれども、そういう…

まき おまたせしました、クラムチャウダーでございます。以上でご注文おそろいでしょうか

ゆうこ 今日のお家は、お父さんが出張で、お母さんは病院勤めで夜勤なので、一晩中戻らない、と言われた。私と、赤ちゃんと、二人きり。夜、泣き出すかもしれないですが、すいません、直しくお願ひします、と、私と同じ年くらいその母親は、家をあとにした。

あさこ 母から頼まれた、明後日のスピーチ、きっと妹が喜ぶだろうと、頼まれた、明後日のスピーチ、

まき クラムチャウダーでございます。以上でご注文おそろいでしょうか
しずか クラムチャウダー。

まき ごゆっくりどうぞー。

しずか 給食以来かもしれない、たぶん。家でクラムチャウダーを作った記憶もないし、クラムチャウダーを食べに行こう、ということもなかったのだから。ファミレスのクラムチャウダーだから、と馬鹿にかかっていたけど、案外おいしかった。こんな時でもうまいものはうまい。給食のクラムチャウダーはどんなだっけ、と、給食当番の時、みんなに大盛りをよそってくれためぐちゃんのことを思い出した。めぐちゃんはいつもニコニコ、誰からも好かれるような、誰からも何か頼まれてしまうような、子だった、めぐちゃん、めぐちゃんと一緒に青虫をとりにいこうと約束していた日、雨が降っていた。私は、雨だったら中止という約束はしてなかったの、めぐちゃんはいらなはずだ、と、傘をさして、待ち合わせの駐車場で待っていた。雨のしずくで車に絵を書いたり、駐車場のフェンスの網目に、草を詰め込んだりしながら、めぐちゃんを、待っていた。待っていたけど、めぐちゃんは、1時間待っても、暗くなるまで待っても、結局、来なかった。

まき いらつしやいませー、何名さまでしょうか？二名様で。二名様ご案内
します。

しずか その後、めぐちやんに学校で会ったときに、なんと行って声をかけた
のかは、覚えていない、

まき 失礼いたします。お水、おつぎいたしますね、

しずか と、やってきた店員の顔は、どこかで見た事があった。

まき え、あれ：めっちゃ見てはる：え、え、え、え、え、もしかして、急に私
のこを見つめたこのお客さんは、この前のオンエア見てくれはつ
て、一目見てうちのファンになって、ターメリックさん、おもしろいな
あ、いつか生でみたいなあ、なんて思っていたところ、まさかのファ
ミレスでの遭遇というこの奇跡を信じられず、あ、あ、あ、憧れのタ
ーメリックさんや！ああーファンですって言いたい、握手してくださ
い、サインくださいって言いたい！女として尊敬してますって言いた
い！と、内心打震えているのだけれど、こんなシュツとした出で立ち
の私が、実は深夜のお笑い番組をお菓子片手にヘラヘラ見るのが唯一
の楽しみ、と知られるのは恥ずかしい！どうしよう！という葛藤を
抱えているのが痛いほど伝わってきたので、私が、あなたのそのドア
をオープンしてあげましょ、コンコンがちゃ。そうすれば、あなたも
ハッピー、私もハッピー。という訳で、自然に会話が広がるように、
声をかけてみた。

まき お仕事、お疲れですか？

しずか え…。あ、まあ、

まき やっぱTVとか見ますか、疲れると。

しずか ん

まき 息抜きに。

しずか ああ、そう、ですね、

まき お笑い番組とか。

しずか ああ、まあ。

まき 最近、若手芸人のネタ番組とか、深夜に結構、やってますよね！

しずか そう、ですねえ

まき この前の月曜日の、深夜とかねえ。

しずか へえ、

まき この前の月曜日の、深夜1時55分からとか、色んな芸人が集まっ
て、ほら、ネタを見せ合う、みたいなの…

しずか へえ、そんなのあったんですか、

まき ……。

しずか ……？

まき ……。お仕事、何してはるんですか？

しずか ああ、広告とか、です、CMとか

まき ええ！すごいですねえ！ちなみに、どんなの作ってるんですか？

しずか まあ、担当は、ビールとか、ですかね

まき え、え、もしかして、あれとかですか？

♪秋には、秋刀魚、秋には松茸、秋には、秋絞り〜！！パッパーン

秋だけ♪秋だけ♪絞り立って〜♪

しずか (周りを気にして) まあ、それなんだけど

まき おお！ほんまですか！わー！すごい！あれ考えはったんや！

しずか え、なんかやってる人？パフォーマンスとか？

まき (照れて) はい。芸人です。

しずか そうだよね、勢いが、店員としてはみ出てるもんね。

まき いやあ。最近、オンエアされたことあるぐらいで、駆け出しなんです
けど。

しずか と彼女が言ったときに、今日後輩に見せられた映像の中にいた芸人だ
ったことを思い出した。

まき うちも、CM出してもらえくらいがんばりますわー。なんか、あえ
てビール飲む女芸人とかどうです？川に飛び込んだり、ホテルから飛
び降りたり、

しずか ホテル？

まき なんでもやりますよ！

しずか そうだね、面白いかもね。

まき その時は、ぜひ、よろしくお願いしまーす。実はね、今日の、深夜1時40分からのネタ番組も、カットされてなかったらオンエアされるかもなんですよお、あ、お姉さんワンセグついてはります？

しずか あ、ついてないなあ。

まき ああ、そっかあ、もし持つてはったらその時間お姉さんの前めっちゃ通ろうかなあと思っただんですけど。

しずか ごめんね。

女芸人だと言う彼女は、ターメリックまきこつていう名前です、良かったら今度YouTubeに上がってる動画、見てみてくださいと言ったので、私は、見てみます、がんばってくださいね、と、きつとすぐに忘れてしまっただろうけど答えて、もうすぐ30なんでやばいですわあと自嘲し、私と変わらない年なのに、こうしてファミレスで働いている彼女の姿を見て不憫な気持ちになりながら、その後ろ姿を見送った。

まき あのクラムチャウダーのお客さん、うちの名前覚えてくれたらええなあと思う。キッチンの袴田さんは、私が何も言っていないのに、野菜大盛りのまかないを用意してくれていた。は、か、ま、ださん！！（胸をうたれる）と、この38歳無口でめがね、調理エプロンの下にはKISSのTシャツを着ている、カピバラのような優しい袴田さんに心が揺れたけど、袴田さんは見かけによらず、結婚しているの、この優しさに騙されてはいけない！ここで働いている間に、地蔵のような袴田さんから大爆笑をいただくのが小さな目標。袴田さん、（と声をかけ、一発ギャグ）…やつぱ手ごわいあ。

ゆうこ すやすやと寝ている赤ちゃん。私は、このお家のテレビをつけて、まるで、私がこの家に住んでいるかのように振る舞ってみる。まさしやんの帰りを待つ、わたし、だとして、振る舞ってみる。

あさこ あなたが、今日のこの日を、迎えられたことを、あなたが、今日のこの日を、こんな風にみなさんに祝福されて、友達に、家族に、見守ら

れて、迎えられていることを、わたしは、あなたの姉として、とても嬉しく思います。

しずか

駅前のロータリーの女性は、ポテトを食べ終えても、まだそこにほんやりと座っていた。誰かを待っているんですか？ その人は、今日は、来ないんですか？

まき

休憩室でまかないを食べる。携帯を見ると、お父さんからの着信があった。かけ直すと、遅い時間やけど起きていた。何かと思えば、おばちゃんがお見合いを勧めてきている、というどうでもええ電話やっただ。お父さんは、おばちゃんが持ってきたその見合い写真の感想として、ええ風に言うたら、ちよつと剥けて太った亀梨くんって感じで、と言ってきたけど、ちよつと剥けて太ると、もはや亀梨君の原型はないと思うので、全然想像がつかへんかった。おばちゃんは私を本気で心配してか、教師辞めて暇やからか、父づてにしよつちゅうお見合いを斡旋してくる。電話口のお父さんは、亀梨くん、あかんか？ 亀梨くんやぞ、なかなかないぞ、亀梨くん。としつこいので、ほなそのちよつと剥けて太った亀梨くんの写メ送っというて、今、バイトの休憩中なんやねんけど、さつきクラムチャウダーしか頼まへんかった女の人がおつてんけどな、その人、うちのこの前の放送してたやつ見て、おもしろかって、もうすごいファンになってしまいましたー言うてくれはってん。お父さん、この前の放送、結局、見てくれた？ 深夜やからどうせ見てへんねやろ、今度のんはちゃんと放送されてんで、ほんまに。うちも見たいし。あれは全国やから。今日もなあ、あとちよつとしたらオンエアされる、かもしれへんねんけど、それは関東だけやねんなー。放送されたやつまとめてDVD送るわな、焼いてもうて。うちのデッキ再生専用やから焼いてもらわな作れへんねやわ。実家のデッキは、あれ、DVD録画できたっけ？

あさこ

お尻に、チクツと痛みが走った。お尻の下には何もなかった、ポケットを確認すると、刺さったのは、今日電車でもらった、ピンバッチの針だった。

さや

ベンチに座ったまま、崎田さんの職場のこと、私の目撃した変な人、たわいもない話をする。たわいもない話をして、このまま時間が過ぎていけばいいのと思う。崎田さんの横顔を見ながら、今日、家を出る前に見た夢を、思い出した。私は、夢の中で、誰かに呼び出されて、木造の建物の5階のある会議室に行った。部屋に入ると、お寿司屋の大将のマスヤさん、葬儀屋の上司のミチコさん、沖繩のゲストハウスのズケヤマさん、旅行会社のホソダ専務、の4人が、机を囲んで座っていた。それはすべてわたしが今まで働いた職場の人たちだった。皆一心に手元の資料を読んでいる。ホソダ専務の資料をのぞきこんで見ると、そこに載ってあったのは、私の今の家、1DKの部屋の写真だった。部屋の間取り図と、私の部屋にあるものの大まかな箇条書き、何時に起きて、とか、冷蔵庫の中身に常備されているもの、とかまで書かれていた。背中にねっとり、嫌な予感がして、全員の資料をのぞいてまわると、やはりそこには、全て、私の部屋の情報が書かれていた。色んな角度から私の部屋をうつしている写真、私と一週間前まで彼氏だったあいつが、どちらも寝起きのひどい顔と頭で、一緒に朝ご飯を食べている写真、あいつがベランダで煙草を吸っている写真、私がお風呂に浸かっている写真、二人で、夜、一緒に、ベッドの上で抱き合っている写真もあった。急に、お寿司屋の大将のマスヤさんが立ち上がって、小学校一年生が教科書を読まされる時のようにして、堰を切ったように喋り出した。

マスヤ

であい、と、わかれ、というものは、くりかえされるものであります、おなじであいと、おなじわかれで、ぐるぐるくりかえす、ということではなく、であいが、わかれをうんで、わかれがであいをうんで、そのまたであいがわかれをうんで、そうして、ぼこぼこぼこぼこ、じゅずでつないだように、ひとは、つながって、いくのであります、さよならと、ようこそが、ぼこぼこぼこぼこ、こうたいこうたい

でやってくるのであります、ようこそは、さよならのおかあさんでありまして、さよならは、ようこそのおかあさんなのであります、ぼこぼこぼこ、うまれて、うまれて、うまれつつけるのであります、おかあさんがおかあさんをうむのであります、ぼこぼこ、わたしたちの、あずかりしらぬところから、あずかりしらぬところまで、それはつづいてきたことで、これからもつづいていくのであります。さようなら。ようこそ。さようなら、ようこそ、ようこそ、こんにちは。ひさしぶり。ひさしぶり、ひさしぶりだね、元気にしてた？ さやちゃん、ちよっと痩せたんじゃない？

さや

え……。

マスヤ

さやちゃん辞めてから、うちの店、よく働く女の子が最近いなくて困ってるんだよ、おばちゃんばっかだよ、若い子がやっぱいいよね、元気があって。

さや

マスヤさん、

マスヤ

不景気だからねえ、最近。まわる寿司屋も、頑張ってるからねえ、まわる寿司っていったら、僕が若いころなんか、かろうじて寿司、くらいだったけどねえ、最近のは、普通に美味しいって思えちゃうからね、寿司屋の大将でさえ。いやだからね、売り上げあげたいのよ、うちの店、なかなかお金厳しくて。お金厳しくてさ、だから、今月いっぱいだけ、このまま住まわせてもらうっていうのは、だめかな、さやさん…？

さや

マスヤ

だめかな、っていうか、申し訳ないっていうのも、分かってるんだけど、やっぱり急に引越すってなると厳しいし、それとあと、さやの携帯、見せてくれないかな、いや、疑ってるわけじゃないんだけど、もしそこで、なにか浮気とか、そういうので、別れなくちゃいけないっていうことで、僕が出ていかなくちゃいけないんだったら、それはなんか、引越しのお金の初期費用くらいは、割り勘にして欲しいっていうか、

さや

いつのまにかマスヤさんが話しているのはあいつの声になっていて、

マスヤ
まあでも、もちろん、割り勘にしてくれたら、ありがたいなっていう話なんだけど、

みち子
ちよつとまって、それは、なんか筋が違うと思うんだけど、
さや
と私が確かに一週間前にあいつに言ったことを、葬儀屋のみち子さんが、しゃべりはじめた。

みち子
それはなんか筋が違うとおもうんだけど。第一ここは私の家だし、あなたは居候だし。せっかく、こうして、三年と二ヶ月、一緒に暮らして、楽しかったし、そこで急に、こうやって別れの話しをしているわけだから、引越しも急に難しいのは分かるし、次が見つかるまでここにいるのは、構わないけれど、それと、私の携帯見て怪しかったら初期費用払ってっていうのは、なんか違う気がする。

マスヤ
別れるのは、他に好きな人ができたからではないの、
みち子
：私も、もう28だし、あなたとは、このまま一緒にいても、結婚するのは難しいと思ったから、というか、あなたは私と結婚する気がないと思ったから、

マスヤ
ぼくは、ちゃんと、思っていたけど、結婚しようっていうのは。そんなの、今更だから、そういうのは、日々の中で、ちゃんと分かるようにしておいてくれないと、わかんないから、わかんなかったから、今こうなっているわけだから、それは戻せないことで、しょうがないのだから、と、今私はあなたに言っているけれども、実際のところ、正直なところを言うと、一ヶ月前から、私、好きな人ができてしまって、

さや
カット！
ほんとに人を好きになってしまって、

みち子
カット！
別れるのは、そのせいで、ほんとに、崎田さんのことが、
さや
カットカットカットカット！ それは言っていない！

さや、
ホソダ専務とズケヤマさんに取り押さえられる。

みち子 だから本当にごめんなさい、私は、今、崎田さんのことが好きで、ほ

ら、この建物の下、グラウンドのところで歩いている、あの人、

さや 窓から見下ろすと、崎田さんがいた。スーツなのに、体育大会の前の日みたいに、グラウンドの土に、ゴロゴロと、ライン引きを押して、石灰で白い線を引いている。

みち子 ああして、ゴロゴロとライン引きを押している崎田さんにも、長く付き合っている人はいるし、別れはしないだろうけど、この高揚してしまったものを携えたまま、あなたの前で平穩にいることはできないのです、正直なところ、

さや ゴロゴロゴロゴロ、外から聞こえる崎田さんのライン引きの音が、ゴロゴロゴロゴロ、だんだん大きくなってきた。ゴロゴロゴロゴロ、地響きのように、ゴロゴロゴロゴロ、奥底の方から鳴り響いて、部屋中が振動した。私は壁につかまって、身体を支えていると、まわりの人たちは、いつの間にか、マサさんもズケヤマさんもミチコさんもホソダ専務も助産師になっていて、

助産師 だからあれほど、外に出てはいけませんと行ったのに、

さや と言って、私は抱きかかえられた、私のお腹は、だんだん膨らんで、だんだんだんだん膨らんで、カエルのようになって、さらに膨らんで、だんだんだんだん、私には止められないくらいの勢いで膨らんでいって、だんだん、それはもう、立っているのは不可能なくらいに大きくなって、私のお腹は、部屋いっぱい、パンパンに膨らんで、膨らみつつけて、もうどうしようもできなくて、これ以上無理だと思ったとき、ちらつと、覚えていないはずのお母さんの顔が頭に浮かんで、その途端、全てが一瞬真っ白になって、私のお腹は、なくなつた。お腹ごと、私ごと、部屋ごと、建物ごと、崎田さんごと、ちりぢりになって、なくなった。この、今、隣にいる崎田さんに、この、今、隣にいる崎田さんに、私は何を言うべきなのだろう

あさこ

あなたが、今日のこの日を、迎えられたことを、あなたが、今日のこの日を、こんな風にみなさんに祝福されて、友達に、家族に、見守られて迎えられていることを、わたしは、あなたの姉として、とても嬉しく思います。わたしとは、ずいぶん違うあなたは、昔から、自慢の妹でした。周りからも、あなたたちほんとに姉妹なの、なんてよく驚かれましたね。お母さんと顔立ちがそっくりな私とは反対に、うっすら小麦肌で、涼しげな目元、上品で薄い唇のあなたは、顔こそお父さんに似たけれども、誰にでも分け隔てなく接して気遣いをするところや、無防備に屈託なく笑うところ、弟が何か間違ったことをしても、怒鳴ったりせずに優しく諭すところ、困ったナアと泣きそうな顔をしながら、ほんとは困る前にきっちりなんとかしているところとか、スカートからほっそり伸びたふくらはぎ、うなじから沸き立つシャンプーの香り、あなたが振り向いたときに動く、あなたの周りの柔らかな空気、綺麗に整えて磨かれた爪、甘える時に傾げる小首、ピアノを辞めなかったあなた、明るさを引き連れてくるあなた、私を励ますあなた、お母さんにそっくりなあなた、女にふさわしく母になるべきあなた、あなたが、こうして、これから、きつと幸せに歩んでゆく道を、わたしは祝福します。姉として。これから、あなたたち二人は、どんな家庭を築いていくのかな、二人の間に生まれる子は、男の子かな、女の子かな。もし、私たちのように、一つ年ちがいの姉妹と、あと、年の離れた弟、だったらどうしますか？　あなたは、どうやって育てるでしょうか。どうやって、と、聞いておきながら、きつとあなたも、お母さんのように優しく、正しく、隙なく、美しく、育てる。と、わたしは知っています。でもね、産むのだったら、一人目は、男の子がいいんじゃないかな、とお姉ちゃんは思います。なんとなくだけど。お母さんもお父さんも、私が小さい頃に、なぜ砂場遊びは群れて遊んでいる子の方が権力を持つのか、なぜスカートを履き、そしてなぜお花のゴムを施されるのか、なぜ制服を着なければいけないのか、そして、なぜそれをきちんと説明できない先生にわたしは謝らな

ければいけないのか、なぜ、なぜ、なぜ、と尋ねてばかりで、困っていたと思います。あなたはその頃の記憶、ありますか？ きつとお母さんもお父さんも普通に、普通の、あるべきところにあるべきものがあるような、黄金比率の、大多数の、サザエさんのようなちびまるこちゃんのような、そんな家庭にしたかったんだと思うし、しかもあなたは完璧にそれができていたから、わたしは、もし、男の子だったら、その、そういったあなたとの差異を、性別のせいだとおさめさせて、やり過ごすことができたかもしれません。ダイニングテーブルに欠かさず飾られる花瓶の花、家族旅行を提案するのが大好きな父、家族の一日の出来事を優しく尋ねる母、よく笑うあなたは、みんなピンクのコーヒーカップに乗って、水をはじくような笑顔を撒き散らしながらぐるぐるん回転しているようでした。そこに、甘えん坊な弟が加わって、その回転はだんだん速くなってさらに加速してとまらなくなつて、みんなの首が、遠心力でちぎれそうだなあと、わたしは、きつぷ売り場の前からカメラも持たずに眺めていました。その時、高速回転をしているコーヒーカップの中で、わたしがはつきりと見てしまったのは、あなたと、お母さんが、手をつないでいたということ。しかもそこにはねつとりとした質感があった。私は、お母さんと手をつないだ記憶がありません。それは私がつながせなかったのか、つなぐのは嫌だろうというのを見越したお母さんの配慮だったのか、そもそもつなぐつもりがなかったのか、もしかしてつないだことがあるかもしれないけども私になかったことにしているのか、でも、わたしの残像のアルバムをめぐつても、彼女と手をつないだことは一度もなかった。あなたとお母さんがつないだ手と手、あなたはお母さんの指をつかむような形で、お母さんに絡まっていますね。あなたがいなければ、そこにいたのは私だったのかな。お姉ちゃんは、これから、あなたのように、家庭をもてるかは分かりませんが、あなたのことは、応援しています。幸せな、家族を、作ってください。おめでとう。姉より。

しずか

ジャリ、と、クラムチャウダーを機械的に流しこんでいた奥歯に、何か小さい粒が、ジャリ、といった。

まき

お父さんはちよつと黙って、もう、ええんちやうか、帰ってきてても、と言った。うちは言ってる意味がよく分からなかったの、帰るって、なにいな、と言った。うちのお母さんが入院したと聞いてから、余計に帰れなくて帰ってなくて、もう一年も経ってしまった、帰っていない実家、大阪府高槻市紙町三丁目1の5、一刻でも早くなんとか私になんとか今いる場所で身をたてないとだめやと思って、思ってたやつと、もうちよつと、のところが今、お父さんからの電話は、怒るでもなく、ため息まじりで、しゃがれた声、私が電話で想像するお父さんは、実際もつと老けてるって知ってるけど、私が今思い浮かべるお父さんは、きつと実際よりもうちよつと若い

しずか

何か、小さい粒が、ジャリ、といった。それは、砂だった。クラムチャウダーのあさりだかしじみだかの小さい貝が吸い込んでいた砂だった。この、ファミレスのクラムチャウダーの、偽物みたいな小さい貝も、この地球の一部、海の中漂った一個の生命なのだ、こんなちよつぽけなこいつでさえ。私は、どんな貝だろうか。あんなに海に近かった実家、閉鎖的故に牧歌的な田舎コミュニティから抜け出し、飛び込んだ憧れの街。憧れの広告。目をひくキャッチコピー。交差する視線。焦げたアスファストをヒールで蹴っ飛ばし、踏み込むアクセル、べたつくハンドル、皮膚という皮膚、髪という髪をバタつかせて、ぶつかってくる企画書を咀嚼して、何か大きなビッグウェーブ、心臓が裏返る瞬間、ドーパミンが爆発する瞬間を期待して、踏み込むアクセル

まき

帰ってきてこつちで働けど、まだぎりぎり今からでもなんとかなるやろうと、お兄ちゃんのお嫁さんがお母さんのあれこれやってくれているんやと、お前は血が繋がった娘ちやうんかと、言う父、でも、もうちよつとやから、もうちよつとでどうにかなるから、待って、と言った。そう言ってる何年になるんやと案の定言われ、東京にきて6年、やけど、ほんまにもうちよつとなんやと、今夜も、OAされてるかも

しれへんねやと、今やねんと、言った。それで何分テレビうつんねやと聞かれて、分からんけど、もしうつたら3分やけど、と答えた。たった3分でどうにかなる言うтонかいな、もう、知らんわ、と、言われて、電話は終わった。

しずか

ジェットコースターのこの操縦席に私は一人、隣には誰も座っていない、この大きなカーブの先に、私と洋ちゃんの幸せはあるのだろうか、海、遠く離れた海、日に灼けた顔をくしゃくしゃにして、おじいちゃんは、しずかは立派な仕事しちゆうからなあ、と言うだろう、おばあちゃんは、いつひ孫の顔ば見せてくれんやるか、と言うだろう、この先の所謂いわゆる幸せと呼ばれるものは、この操縦が終われば、出会うのだろうか、操縦の終わりはどこにあるんだろうか

拍手

まき

どうもターメリックまきこです。ナマステはいはいー言うてやらしてもうてますけども、ショートコント、『保育園の先生』。

「わー、ターメリック先生、ゆうきくんがたいたいたー」

「たいたいてへんわー。」

「たいたいたー。」

「ゆうきくん、なんでたいたいたの?」

「そのブロック使いたかったから、わーん。」

「そっかそっか、ブロック使いたかったのかあ。でもね、ゆうきくん、おもちゃ使いたいからって、それを力づくでとったらいけないでしょう。今はあなたは4歳の小童だから許されるけども、そのままそれを続けてご覧なさい。どうなるかな? 小学校ではあいつは人の物を力づくで奪うやつだと全校生徒と保護者に噂され、先生からの風当たりもきつくなり、それでも人のものを力づくで取り続け、6年生卒業間近でその状況にとうとう耐えられなくなったあなたは、自分のことを誰も知らない全寮制の中学校に入学するわ。そこでもあな

たはやはり人の物を力づくでとってしまい、ヤンキー先輩に目をつけられ、殴り合いを繰り返す日々。ああ、スパイシー！ 喧嘩がどんどん強くなるあなた。So Spicy!

そのまま地元に戻りヤンキー高校に入学。でも、そこには自分より強いヤンキーがいて、あなたは、挫折するー！ あの力づくで人の物をとるゆうきが戻ってきたと地元では噂が広まりどんどん居心地が悪くなるあなた。そんな状況と力づくで人の物をとってしまおう自分に嫌気がさして社会との関わりを断絶するでしょうね。そのまま10年。ゆうき36歳。そんな状況に親もほとほと疲れはててしまつて、とうとう倒れるわ。まるでスターアニス。あんなに若くて綺麗だったお母さんの顔はやつれ、目にも生気がなくなり、ただただ病院のベッドで横たわる日々…。それをみてあなたはやつと思うのよ。“人の物を、力づくで取るんじゃないか”って。“お母さんー戻ってきてー！ ぼく、もう人の物、力づくで取らないから！” っ。気付くのが遅すぎるのよ！ ガラムマサラか！ あんたはガラムマサラか！ そうなつてもいいの？ スパイシガラガラ。」

ゆうこ

先生、そんなこと、言わないのにねえー。可笑しいねー。君はゆうでた、ま、ご、僕はしーるみ、か、な、

おー、よしよしよし、どーしたかな、よしよし、ちよつとベランダ言つて、お外でてみよつか、ほら、あー、風が涼しいねえ、気持ちいいねえ。あ、月がまんまる見えるねえ、きれいだねえ、

さや

向かいのマンションのベランダで、若い母親が、子供を抱えていた。

ゆうこ

よしよしよし、どーしたかな、さつきおむつ替えたばっかだもんね、お腹すいたかな？ じゃあ、ママのおっぱいあげようか、ママのおっぱい…。まさしやんと、私の間に産まれた、この子に、私は、ママだから、おっぱいをあげる。やわらかい指が私の乳房をつかんだ。私は、乳首を、この子の唇に持つていく。おなか、すいたよねえ、ほら、ママのおっぱいだからね。ほら、いっぱい飲んでいいんだよ、ほら、ママのおっぱいだよ、ほら、ほら、ほら、

さや

向かいのマンションのベランダで、若い母親が、子供を抱えていた。子供…と私がつぶやいてしまうと、崎田さんも、ベランダを見上げた。崎田さんは、突然、子供は、あんま好きじゃないけど、と言いつい出しても、実際産まれたら、自分の子だったら、可愛いんだろうなあ、と言った。そうだろうねえ、と私は言ったら、

崎田さんは、来月、彼女の誕生日にプロポーズしようと思ってるんだ、と、言った。

…へえー、そうなんだあ、そっかそっか…そうなんだ、そっかそっか。

崎田さんは、そろそろかなあと思って、と言って、崎田さんは、なんだかんだ4年も付き合ってきたし、と言って、崎田さんは、でもまあ、さやちゃんとはこれからも仲良くしていければ、と言いかけたので、

…だめだよ。ちゃんとしないと。

お父さんに、なるかもしれないんだから。崎田さんは。

だから、そうだよ、わたしもちゃんとしなくちゃだし、一人じゃないし、一人じゃないから。もう、だから…

間

さや

さようなら。

さや、歩き出す。

女達も、歩き出す。

暗転。

おわり

(初稿 2013)